

Urban Design Lab. Magazine

東京大学都市デザイン（西村・北沢）研究室
工学部都市工学科／工学系研究科都市工学専攻
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

編集長：塩澤涼子
編集委員：石井宏典 蛸灰谷愛 平岡惟 増田圭輔 矢原有理

「鞆」遠方より来る、亦楽しからずや

- 鞆プロジェクト2007、現地訪問で二浦まちあるき -

text_ishii

快晴の空が東京からの来訪者を迎える。6月9日・10日にかけて、鞆プロジェクトメンバーも現地を今年初訪問。1泊4日の強行日程も物ともせず、鞆・尾道の2つの町で精力的に散策をおこなった。

架橋問題をめぐる裁判を7月に控え、激動が予想される2007年の鞆。東大チームの今年のテーマは「港町ネットワークの創造」。昨季より続く中国・四国の古港調査を、広域的なまちづくりにつなげたい。新メンバー3人を加えた鞆プロジェクトは、瀬戸内の海に大きな航跡を描くことができるか。

玉の浦（尾道）まちあるき【10日午後】

三原市の松田英之氏のご案内で、夕暮れの尾道を散策。石段の横丁、湾沿いにゆくりと曲がる鉄道、残光に輝く水面など、町の随所に懐かしげな風景画の面影が。

坂上の寺町の路地から、眼下に尾道の街並みを望んで。



名刹・千光寺で夕方6時の鐘を撞く機会を頂く。



横丁の粋なチャイカフェで、長き散策は幕を閉じた。



鞆から尾道へは北前船の名残を溯って海路をゆくことに。



鞆のシンボル・常夜灯の下で決意新たに誓うメンバー。



高台の対潮楼から望む弁天島は、朝鮮通信使が絶賛した名景。



薬用酒の造り酒屋・太田家住宅で建築と文物の講義を拝聴。



鞆の浦まちあるき【9日・10日午前】

新メンバーへの案内も兼ね、鞆の主要部をぐるり散策。古き港町の様式美を色濃く残す鞆の叙情的な美しさに、一同しみじみとため息をつく場面も。

鳥海先生ご結婚パーティー

OB・OGつどいて賑やかな祝福

D4 田中暁子(本紙囑託・祝事担当)

東大本郷キャンパスの一角、学生会館分館で、フィレンツェ市庁舎で結婚式を挙げた鳥海さんと秀実さんのご結婚報告パーティーが開かれました。研究室からは西村先生・OB/OG・現役学生10名が祝福に駆けつけました。

秀実さんのお友達の本格的なフラメンコやソムリエ鳥海さんセレクションのワインをかけたクイズ大会など趣向を凝らした出し物に、同日開催の五月祭に負けないほどの熱気に会場が包まれました。渋谷クローデル賞ルイ・ヴィトン・ジャパン特別賞受賞、著作出版ラッシュ、そしてご結婚と公私ともに絶好調の鳥海先生のご活躍から今後も目が離せませんね！



学生部会の挑戦

柏の葉アーバンデザインセンターに発足



上田 恵莉(空間計画研・M1)

6月2日、伝説は始まりました。学生部会のキックオフミーティングへの参加者は9大学40名。予想外の参加者の多さに嬉しい悲鳴。

学生部会は、都市を専門に研究を行う学生の意見交換とネットワーク構築を目的に立ち上げられました。挑戦してみたいことは山のようにありますが、まずは活動方針から議論していかなければと思っています。(まだ発足の前段階、といったところでしょうか。)現時点での目標は9月下旬にイベントを開催することですが、研究室の活動紹介や意見交換は継続的に行っていく予定です。いずれにしろ、学生同士のアツイ議論を期待しています。

参加者は随時募集中ですので、学年を問わずみなさま是非ご参加ください。

※柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK)

千葉県柏市柏の葉地区を中心に、国際性豊かなまちづくりの実現に向けて地域(柏市、柏商工会議所、田中地域ふるさと協議会)と大学(東京大学、千葉大学)、民間企業や関係機関、市民が協働する場です。地域の魅力を生み出す提案活動として、大学が中心となる「都市環境デザインスタジオ」等が行われ、様々な大学から学生が集まっています。

(空間計画研HPより転載)

留学生お宅訪問 第4回

D1金さん(韓国)

text_hiraoka

綾瀬に、金さんと奥さんの二人暮らしのお宅を訪ねました。

お腹を減らせて伺ったM1編集委員は、たくさんのお話をお聞かせしてもらいました。

【出身は】

釜山。福岡から2時間半、往復1万6千円と、時間的・金銭的に案外近い。大学はソウル。学部時代は都市計画を専攻。

【日本で好きな場所】

浅草六区。下町っぽさがよい

【日本の都市で印象的なところ】

日本橋など、昔の町割りが残って、そのままビルになっているところ。幕府があったことで、当時のくにごとの地域色があるところ。

【文化の違いなど】

日本の女の子はみんな顔が小さい！学年ではなく年齢の上下関係が強い。お酒の席で、韓国では年上が全部払うのがふつう。日本はお酒が高い。

【研究室へのメッセージ】

これからもみんながんばりましょう。



金さん、本当にありがとうございました！！

編集後記

今回、鞆プロジェクトの現地訪問に帯同してきました。3泊中2泊夜行バスに缶詰、入浴もままならぬ状況は「従軍記者」と呼ぶにふさわしい殺伐たる生活。が、短い旅路の中に溢れんばかりに詰まった、美しい瀬戸内の風景と親切な人々との出会いが、その労苦を忘れさせてくれました。

鞆は、室町時代最後の将軍足利義昭や、幕末の政変に敗れた三条実美ら七卿、京を追われた要人がつかの間の安息を求めて逗留した隠れ里と伝わります。もちろん、古の貴人達とは比べるべくもありませんが、自分も就職活動の長丁場の途で逃避してきた身、彼らの感じた鞆の浦・玉の浦の魅力やなんとなく共有した気がします。多島海の風景は日本人の原風景のひとつ。その閑雅な眺めは、時代を越えて、疲れた都会人の心をゆるやかに包み、癒し続けてくれるものなのかもしれません。

text_ishii

ポルトガル留学を終えて

北沢研・松尾M2が帰国

ポルトガルに交換留学していた柏・空間計画研の松尾さんが、半年あまりの修学を終え、先月無事帰国しました。

松尾 真子(空間計画研・M2)

私は去年の9月から8ヶ月間、ポルトガルにあるリスボン工科大学建築学部に留学していました。大学では週3回の設計課題とリサーチに取り組んでいました。都市コースでは、国土計画から建築詳細図までのスケールを扱い都市と建築の垣根がまったくないことが印象的でした。

青い空と大西洋とワインでのんびりとした時間を過ごしてきたわけですが、日本にいるポルトガル人の友人の言葉で考えさせられた言葉があります。日本人は「live to work」であるけれど、ポル人は「work to live」であるだけなんだよと。



2007年度第5回研究室会議

text_ishii

6月11日、802会議室で第5回研究室会議が開かれた。来年度の進学希望者の視線も注がれる中、質疑応答が大幅に予定時間を超えるなど、各論題に対し熱い議論が行われた。

今年度論文執筆予定者については、発表もおおよそ一回りし、研究も今後の展望が見えつつある。夏場以降の執筆活動の本格化に期待したい。発表者および題目は以下の通り。

- M2平林直「文化・芸術を用いた地域振興の取り組みと芸術家に関する研究 -長野県内の都市を事例として-
- M2筒井直央「日本の都市空間における米軍接収地と接収解除地の意味に関する研究」
- M2後藤健太郎「都市及び都市風景認識とその変遷に関する研究 -イタリアの都市図画を通して-
- D3韓昊英「Implementation Strategies for Urban Growth Management in China -a Case Study of Beijing-

マガジンフォルダ設置のお知らせ

9階入り口にマガジン用フォルダを設置しました。バックナンバーが欲しい方はご自由にお取りください。